



写真-4 植野塾

## 5. おわりに～今後とまとめ～

これまでの造る時代とは違った時代に突入していることは皆さん感じているでしょう。では今後どういう方法で対処していかなければならないのか。管理者としては、先行きが分からず、いつまで続くかわからない恐怖と向き合い、市民の安全・安心を、

限られた資源「ヒト・モノ・カネ」で、対応しなければならず、多方面から俯瞰的に考えていくことが重要である。批判も数多く受けることになる。そして、これまでとは違った「責任」と「覚悟」が必要になってくる。

そうした中、どういう方策でこの時代を乗り切っていくのか考える必要が有る。国や県とNEXCOやJRなどと、基礎自治体では対処法がおのずと異なってくるのではないかと？なぜか？財政状況が違うからであり、市民に一番身近な管理者だからである。

私は、そろそろ引退の時期ではあるので、「ヒト」人財こそが今後の自治体、社会を左右するであろうと考えている。「考える職員」「マネジメントできる職員」が必要であり、「決断と責任」という事が重要となってくる。皆さんの自己研鑽を期待しています。

## 「会員だより」の投稿を募集

月刊「全建」では「会員だより」というコーナーを開設します。月刊「建設」に関する意見・感想・要望、その他の全建活動（建設技術講習会、伝承プロジェクト、公務員賠償責任保険等）に関する意見・感想・要望、業務上の悩み等をお寄せください。お寄せいただいた意見等については、月刊「建設」の「会員だより」のコーナーに掲載させていただくとともに、今後の編集等の参考にさせていただきます。詳細は全建HP上のバナーをクリックするか、下記のQRコードを読み取ってください。たくさんのご応募をお待ちしております。なお、月刊「建設」の「会員だより」に掲載させていただいた方にはクオカードを進呈いたします。



一般社団法人全日本建設技術協会 事業課 峯脇・黒崎  
TEL：03-3585-4546/e-mail:kensetsu@zenken.com